

政治·经济上的复式概念的探讨

—— 中国与日本的比较 ——

1992年9月28日 中国泉州学学术研讨会

(於上海市政协)

桥本 乔

I 序 —— 复式思考

II 政治·经济上的复式结构

1. 关于「日本式经营」

2. 政治上的复式结构

—— 中国与日本的比较 ——

3. 复式的文明意义

III 结 —— 复式上的竖向与横向

I 序 —— 复式思考

人的思考，在形容事物的判断上，采取了对称部分类的方式。高·低，上·下，宽·窄，等等。这种比较是相对的，作为标准。设定了「中」或「均衡」的指标。总括起来，可称为复式思考。

复式思考是人类社会共有的，但这复式思考表现在制度上，社会上（政治·经济·文化上）因大洋的东西，大陆的南北，各有微妙的不同之处。特别是表现在以水稻农耕这一生产方式为基准，显示出极大的对称性。

我想就中国与日本在政治·经济方面的制度、结构·探讨一下基本性质。

II 政治·经济上的复式结构

1. 关于「日本式经营」

近几年，作为日本经济发展的因素，常提及「日本式经营」的作用。其内容，终身雇用·论资排辈型工资·企业工会等方式的贡献得到很高评价。日本社会·企业中「对人的评价」继承了历史传统，基本上是工作成绩方面和人品等非工作成绩方面的复式评价。本质上、是复式感觉在「日本式经营」上起作用。论资排辈型工资·终身雇用等，除了工作成绩，还考虑到学历·教育·知识·经验·年令·人物·家族等非工作成绩事项。这不仅是工作人员（工人），经营者·管理干部亦然。他们从工作成绩和非工作成绩两方面接受双重评价。企业工会亦建立于经营者·管理干部，工人在同一基础上不相互排除共存共立这一基础之上。这些经营事象可看作复式结构·事象。

2. 政治上的复式结构

— 中国与日本的比较 —

从历史上看中国和日本的政治体制，可以发现一元式专制统治和复式分立统治的显明不同之处。在中国，从殷·周·秦·汉到近代，一贯是一元式皇帝专制的政治体制。在一元式统治下，多元式基准无法存在，只有一个基准支配着国家社会·家·人民全领域。与此相对，在日本，从古代·推古期到现在、原则上是复式分立统治的体制。特别是从中世·镰仓时代、一直贯穿于源·北条·足利·德川各时代·作为权威中心主管祭祀仪式的不执政的天皇与执政的将军这一二权分立体制明显地发挥着作用。进入近代后，又被继承为明治宪法·现行宪法的权力分立机构，一元式专制与复式分治两体制间，可以看到根本上的不同。其像山该怎样去认为呢？

3. 复式的文明意义

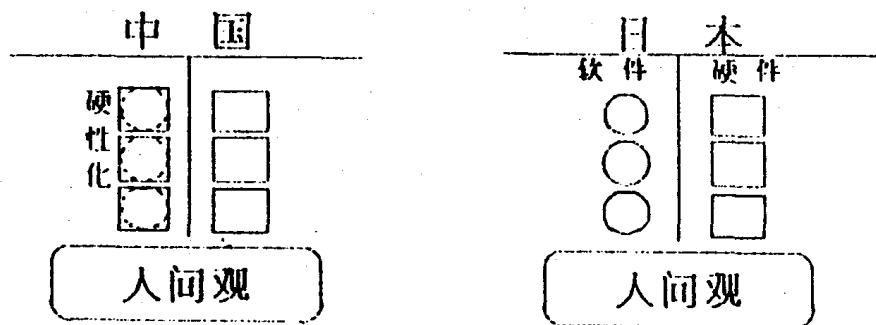
在探讨政治统治方面中日体制之不同的缘由，可举出文明的性质、人间观等问题。

日本人的人间观不同于西洋的单一，孤立的「个人」，而是一种包含着超越个人的，人与人之间相互关系——缘份·关系——观念。表示人的「人间」，其音表达了字义（和辻哲郎）。日本人在「人与人之间」意识「自己」在与「他人」相对的、多重的「复式·结构」的关系中，调整·规定「自己」。是软性的人间观——人间。中国人的人间观·人，与日本的类似，它伴随着丰富的人际关系，历史性地加深加厚了文化层。

但是，中日文化·制度·结构的表现上有很大的距离。最主要的是政治·统治领域的不同。

为什么从相似的人间观会产生差别呢？

社会文明的体质，借用电脑用语来表达，可分为硬件事物领域和软件事物领域两种。就人间观来说，可以说前者是「个人」，超越个人与他人之间的「缘份·关系」的领域则属于后者。中日两者间的主要差异，可以认为在于软件领域。在日本，以水稻农耕为基础培育了人与人之间的信赖，实现了以「和」为最高标准的复式·均衡的社会。可以说，在这个范围内，创造了丰富的软件文化。另一方面，在中国，北方主要是旱田耕作的社会，动物性优越于植物性。因而创造出强烈的个性，压制了软性领域，实现了硬件，中华思想的支配。在中国漫长的历史中，我们可以看到繁荣的软件文化大多在现实中硬性化了。比如，儒教发源于中国，但随着时代的变迁硬性化了，到了今天，已完全不属于软性了。



III 结 束 语

我认为软件领域的硬性化·硬件化是中日两者间乖离的主要原因。在日本，软件领域不受限制地得到开发，制度上，机构上实现了复式构造。可以说它是复式概念的横断展开。中国，软件领域被一元化地支配、制约，制度上、机构上、复式构造被纵断地系列化。因而，复式概念硬性化，转化为单式事物。这一因素的分析，打算作为今后的课题。

政治・経済における複式概念の探討

—— 中国と日本の比較 ——

1992年9月28日、報告発表 中国泉州学學術研討会

(於上海市 市政協)

橋 本 喬

◆キーワード：

複式 人間ジンカン 個人 縁・間柄 和 動物性 植物性 ハードウェア的領域 ソフトウェア的領域

I 序——複式の思考

II 政治経済における複式構造

1. 「日本的経営」について

2. 政治における複式構造

—— 中国と日本の比較 ——

3. 複式の文明的意味

III 結——複式におけるタテとヨコ

I 序——複式の思考

人間の思考には、事物を形容しての判断に、対或いは分類の方式が採られる。高・低、上・下、広・狭、等々である。この比較的な判断は、相対的であり、標準として“中”或いは“均衡”の指標が予定されている。総じて、

複式思考と称することができる。

複式思考は、人間社会共有のものであるが、この複式思考の制度的社会的（政治的・経済的・文化的）発現には、洋の東西、陸の南北により、微妙に異なりを見せる。特にそれは、生産方式たる水稻農耕を基準として、大きな対称性を示す様に思われる。

中国と日本の政治面、経済面における、制度・構造について、基本的性格の検討を提起したい。

II 政治経済における複式構造

1. 「日本的経営」について

近年、日本の経済発展の要素として、「日本的経営」の役割が語られる。その内容として終身雇用・年功型賃金・企業別組合等々の方式の貢献が評価されている。日本社会・企業における“人間の評価”は、歴史的伝統を継承して、業績面と人物等の非業績面の複式評価が基本である。「日本的経営」には、本質的に複式感覚が働いている。年功型賃金・終身雇用については、業績に加えて学歴・教育・知識・経験・年齢・人物・家族等の非業績事項を考慮する。これは従業員（労働者）だけでなく、経営者・管理者も同様に、彼等は業績と非業績の両面にわたり二重の評価を受ける。企業別組合についても、経営者・管理者と従業員が同質的基盤の上に、他を排除せず共存する所に成り立っている。これらの経営事象は、複式的構造・事象と観ることができる。

2. 政治における複式構造

——中国と日本の比較——

中国と日本の政治体制を歴史的に観ると、一元的専制支配と複式的分立統治の、対照的な違いが見出される。中国の場合、殷・周、秦・漢から近代に至るまで、一貫して一元的皇帝専制の政治体制であった。一元的支配の下

では、多元的基準は存在し得ず、唯一つの基準が国家社会、家・人民への全領域を支配する。これに対し日本においては、古代・推古朝から今日に至るまで、複式的分立統治の体制が原則であった。特に中世・鎌倉時代からは源・北条・足利・徳川の各時代を通じて、権威の中心として祭儀を司どる不執政の天皇と執政担当者の将軍との、二権分立体制は明確に機能して、近代に入っても、明治憲法・現行憲法の権力分立機構に継承された。

一元的専制と複式的分治——両体制の間に、基本的相違を観ることができる。この縁由をどう考えるべきか。

3. 複式の文明的意味

政治的統治的側面の中日の体制的相違の縁由を考察するに、文明の性質・人間観の問題を採り挙げる。

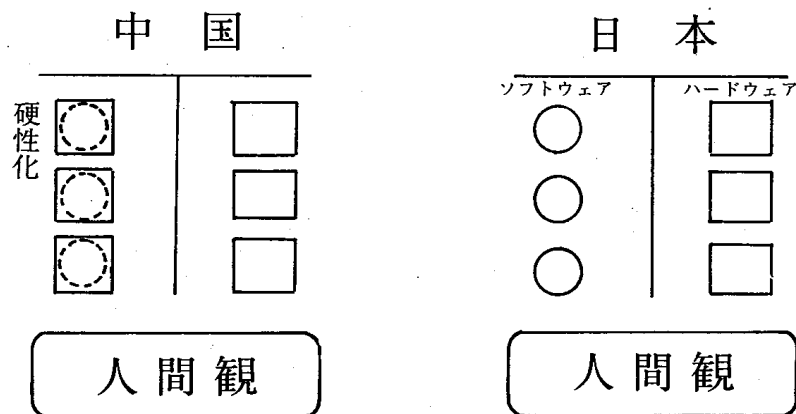
日本人の人間観は、西洋の、単一の孤立的な「個人」ではなく、個人を超えた対人相互の関係—縁・間柄—を包含する観念である。ヒトを表わす「人間」は、ジンカンの音が字義を伝える（和辻哲郎）。日本人は“人との間”で「自分」を意識し、「他分」との相対的・重層的な「複式・構造」の関係の中で、「自分」を調整・規定する。軟性的な人間観—人間ジンカンである。中国人の場合、人間観・人 ren は、日本人のそれと類似する。それは豊かな人間関係を随伴させ、歴史的に文化の層を深く厚くして来た。

しかし中日の、文化的・制度的・機構的発現には、大きな距りが見られる。政治的・統治的領域の相違は、その最たるものである。

何故、類似の人間観から違いが生ずるか。

社会・文明の体質は、コンピュータ用語をもってすれば、ハードウェア的事物領域とソフトウェアのその2種に分け得る。人間観について、「個人」は前者であり、個人を超え、他者との「縁・間柄」の領域は後者に属するといえよう。中日両者の間の主たる相違は、ソフトウェア的領域に在る、と観られる。考察するに、日本においては、水稻農耕を基礎に人間信頼を育み、「和」を最高規準とする、複式・均衡の社会を実現した。この枠の中で、豊

かなソフトウェア的文化を創出したといえる。一方中国では、北方を主に乾地農耕の社会であり、動物性は植物性に優越した。強い個性が造られ、折角のソフトウェア領域を圧伏し、ハードウェア的中華思想の支配を実現した。中国の長い歴史の中で、花開いたソフトウェア文化の多くは、現実ハード化硬性化した、と観る。例えば儒教は中国に発信したが、時代と共に硬性化し、今日、全く軟性には属しないのである。



Ⅲ 結 語

ソフトウェア的領域の硬性化・ハードウェア化を、中日両者間の乖離の要因と観る。日本において、ソフトウェア領域は制約無く開拓され、制度上・機構上、複式・構造を結実させる。それは複式概念の横断的展開といってよい。中国の場合、ソフトウェア領域は一元的に支配・制約され、制度上、機構上、複式・構造は、縦断的に系列化される。そこで複式概念は硬性化し、単式の事物に特化する、と観られる。この要素的分析は、今後の課題としたい。